

第5章 地域別構想／エリア別まちづくりの方針

5-1 地域別構想の位置づけ・役割

(1) 地域別構想の位置づけ・役割

本計画が掲げる「人と自然・歴史・文化を紡ぐ“感動のまち”おばま」の実現に向けては、まち全体としての統一性・整合性を図る観点だけでなく、各地区の資源や個性を活かしたきめ細かな取組みとの両輪で進めていくことが重要であり、その場所でしか味わえないさまざまな感動がつながっていくことで、全市的な“感動のまち”へと発展していきます。

本市では「食のまちづくり」の一環として、市内 12 の地区が「地区振興計画」を作成しており、平成 13 年度から 10 年間にわたり「いきいきまちづくりプラン推進事業」を実施するなど、各地区の特徴を活かした住民主体のまちづくり活動が実践されてきました。

平成 23 年度からは、新たに、地域の夢の実現に向けた活動を支援し、さらなる協働^(※)へのステップアップを図るため、「夢づくりコミュニティ支援事業」に取り組んでいます。また、本市がめざす協働のまちづくりを積極的に進めるため、「小浜市協働のまちづくり基本指針」を策定しました。

地域別構想は、「地区振興計画」に示されたまちづくりの取組みを基に、今後のまちづくりに対する各地区の想いや取組み方針・具体的アイデアなどを反映しつつ、「市街地」「田園」「山間」「海岸」の各エリアにおけるまちづくりの方向性を骨子的に示したものです。

市民一人ひとりが感動を生み、育む主体であることを共有するとともに、地域別構想に基づきながら、住民主体のまちづくり活動の活性化を図っていきます。

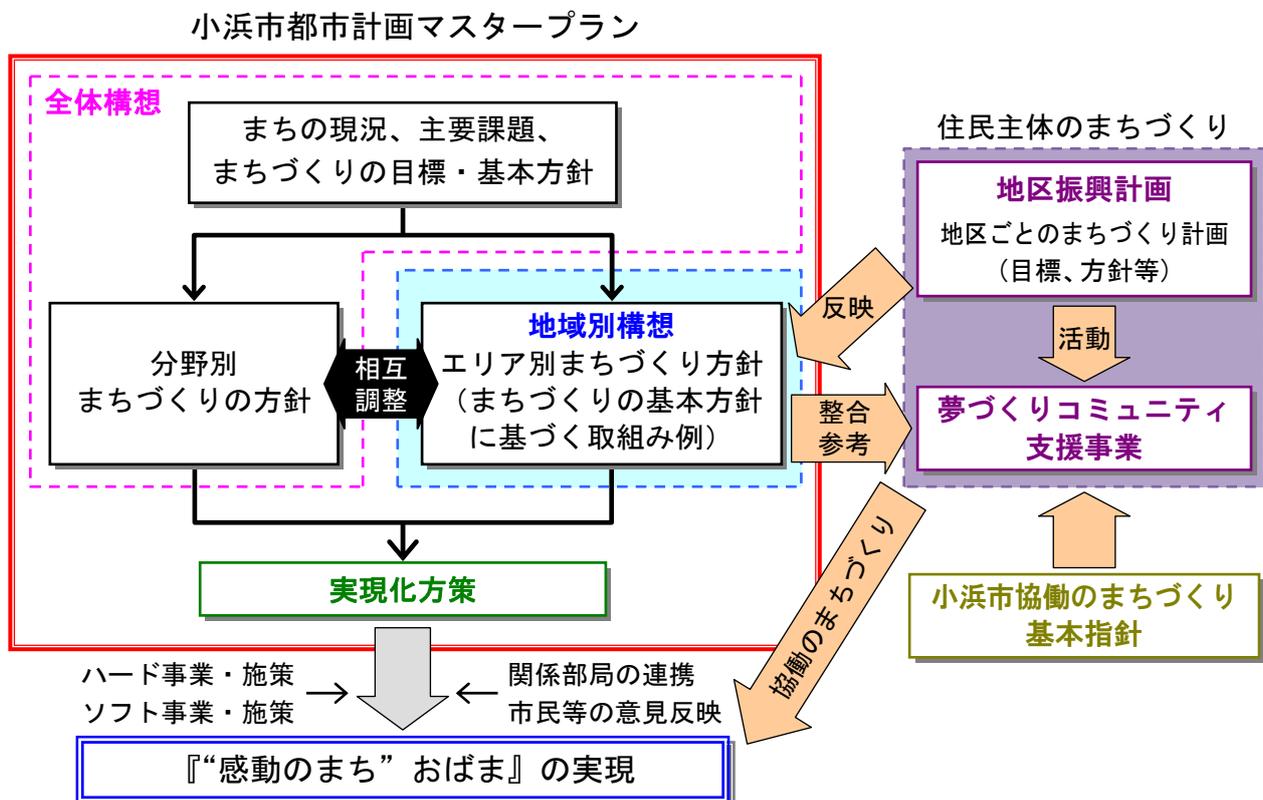


図 5-1 地域別構想の位置づけ

(2) エリア区分と地区との関係

本計画では、「市街地」「田園」「山間」「海岸」の各エリアの特徴や地域資源を最大限に活かすとともに、性格の異なるエリアが相互に連携し相乗効果を高めることで、住んでいる人や訪れる人が感動できるまちづくりを進めることをめざしています。

このため地域別構想も、4つのエリアごとに今後のあるべき地域の姿・取り組むべきまちづくりの方向性や具体例を示しています。

住民主体のまちづくり活動の単位である12の地区は、いずれも複数のエリアにまたがりますが、本計画では主に該当するエリアとして、以下の区分で掲載しています。

市街地エリア	小浜地区、雲浜地区、西津地区、(遠敷地区)、(今富地区)
田園エリア	国富地区、宮川地区、今富地区、(松永地区)
山間エリア	松永地区、遠敷地区、口名田地区、中名田地区
海岸エリア	内外海地区、加斗地区、(小浜地区)、(西津地区)



図 5-2 エリア区分と地区との関係

5-2 市街地エリアのまちづくり方針（たたき台）

（1）市街地エリアの概要／小浜地区、雲浜地区、西津地区、（遠敷地区）、（今富地区）

①市街地エリアの概況

市役所や図書館、病院などの都市機能が集積するコンパクトな市街地を形成しています。

小浜西組重要伝統的建造物群保存地区^(※)をはじめとした文化財が点在し、若狭湾や河川、市街地背後の緑地など豊かな自然環境の中で発展してきた歴史・文化を今に伝えています。

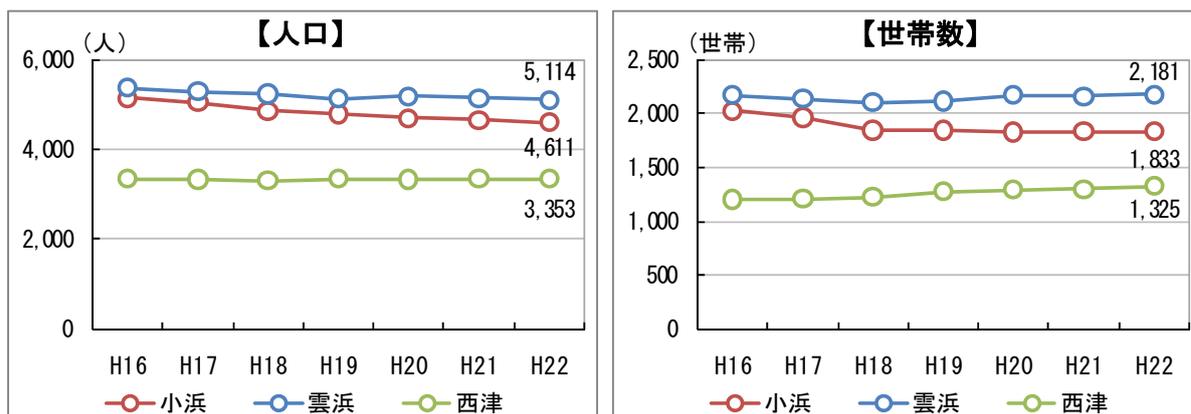
国道 27 号と国道 162 号が通り、JR 小浜駅や JR 東小浜駅を有するなど、交通利便性の高いエリアとなっています。



②人口・世帯数

平成 22 年における市街地エリアの人口（3 地区の合計）は 13,078 人、世帯数は 5,339 戸であり、それぞれ市全体の 40.9%、44.8%を占めています。

経年変化では、小浜地区が減少傾向、雲浜地区と西津地区は横ばいとなっています。



③主な地域資源

小浜地区	自然資源	南川、白鳥海岸、青井生活環境保全林
	歴史文化資源	史跡後瀬山城跡、小浜西組重要伝統的建造物群保存地区、小浜放生祭、薬医門（空印寺）、長源寺山門、八幡神社木造鳥居、常高院墓所、酒井家墓所、白鳥会館・煉瓦塀、高鳥歯科医院、都菓子舗、森下家住宅、旧旭座
	主な施設	小浜小学校、小浜公民館、小浜市立図書館、若狭ふれあいセンター、御食国若狭おばま食文化館、若狭フィッシャーマンズ・ワーフ、小浜町並み保存資料館、町並みと食の館、若狭霊場、小浜浄化センター、JR 小浜駅
	その他	マーメイドテラス、人魚の浜海水浴場
雲浜地区	自然資源	北川、南川、雲城水
	歴史文化資源	小浜聖ルカ教会、旧山川家住宅（山川登美子記念館）、雲浜獅子、小浜城跡
	主な施設	小浜市役所、県立若狭高等学校、小浜中学校、小浜第二中学校、雲浜小学校、中央公民館、雲浜公民館、小浜市文化会館、小浜市働く婦人の家、勤労福祉会館、県立若狭図書館学習センター、公立小浜病院、小浜市健康管理センター、嶺南振興局若狭健康福祉センター、市民体育館、福井家庭裁判所小浜出張所
西津地区	自然資源	川西海岸
	歴史文化資源	旧古河屋別邸 附庭園（護松園）、綱女（墓碑・石像）、西津七年祭
	主な施設	福井県立大学小浜キャンパス、県立小浜水産高等学校、西津小学校、西津公民館、若狭総合公園、箸のふるさと館
	その他	西津漁港

※文化財の出典：小浜市教育委員会ホームページより

(2) 地域別懇談会で出された主な意見

■観光・交流について

- ・多くの資源があるが、あるがうまく活用できていない。
- ・空き家がたくさんあり、観光面で活用できないか。
- ・人が集まる拠点づくりを進め、滞在型の観光を進めたい。
- ・小浜西組など、まちなかを歩く人が増えている。どう歩いてもらうかを考えることが大事。
- ・案内サインが目立たない。デザインを揃え、場所を考えて設置してほしい。
- ・土日も含めて来訪者への観光案内をしてほしい。
- ・小浜城跡周辺には、駐車場がなくバスも入れない。国道 162 号の改修に合わせて駐車場を確保してほしい。
- ・来訪者に電動アシスト付自転車をレンタルすれば、寺社を巡る観光ができるのではないか。

■地域活動について

- ・地区で出来ることは行うが、行政の支援が必要な活動もある。

■土地利用について

- ・駅や病院、行政等の機能が整っており、コンパクトなまちづくりができる環境となっている。
- ・特に高齢者は、まちなかでの買い物に不便を感じている。
- ・まちなかを縦断する道路がない。
- ・つばき回廊商業棟跡地は、まちなかへ人が戻ってきたくなる場として活用してほしい。
- ・農業で儲かるようにすることが大事であり、UJI ターン^(※)などで人を入れていくことが大事。

■生活環境について

- ・伝統的な町並みの保全と、住民の暮らしやすさの確保の両立が大事。

■防災・防犯について

- ・水害の不安がない環境づくりをしてほしい。
- ・福井県立大学へ抜ける山道を整備し、年数回の清掃も予定している。避難路にもなる。
- ・自主防災組織^(※)の育成を市全体で考えてほしい。
- ・小浜 IC が開通して来訪者が増えるため、防犯についても考える必要がある。

■景観・美化について

- ・景観の形成に関する明確な基準を設けてほしい。
- ・町並みや田園、海岸などの景観を保全していくことが大事。
- ・サイン計画をつくり、デザインの統一された案内サインを整備してほしい。
- ・河川上流で捨てられたゴミが流れてきて、海岸沿いに溜まっている。

■市のビジョンについて

- ・まちづくりの根本は地域住民のためであってほしい。
- ・ハード面とソフト面の両方を織り交ぜた計画とする必要がある。
- ・計画をただの夢だけに終わらせずに、達成していく方向で取り組んでほしい。
- ・全てのプランが実行できなくても、1 つずつでも実現していったほしい。
- ・計画がしっかり実行されているかを、継続してチェックすることが大事。

■庁内や各主体との連携について

- ・まちづくりを進めるため、庁内での横のつながりを強化してほしい。
- ・まちづくりの方向性を庁内で共有し、地域を含めて考えてほしい。

<参考>各地区のまちづくりの基本理念 (いきいきまちづくり事業 地区振興計画より)

小浜地区 : “まち” の元気で小浜市を再生
雲浜地区 : きれいで住みよいまちづくり
西津地区 : 住みやすさ日本一

(3) 市街地エリアのまちづくり方針

基本方針①：小浜の地域資源を活かした活力と交流を生みだすまちづくり

【視点】観光、交流、伝統工芸、歴史・文化、食 等

①市街地観光の核となる拠点の整備・活用

つばき回廊商業棟跡地は、「まちの駅」として新たな観光・交流の拠点施設や憩い・交流広場などの整備を図るとともに、(都)小浜縦貫線(広峰～大手町)の整備に合わせて、周辺一帯における市街地整備や機能導入のあり方などについて戦略的に検討します。

また、各地域資源間の連携強化や小浜駅・東小浜駅における案内機能の充実などを図り、来訪者の誘導性・回遊性を高めます。



旧旭座 活用の様子(小浜)

②地域資源間の連携強化による回遊型観光の環境づくり

統一したデザインのサイン整備や案内マップの活用などにより、地域資源間の連携を強化するとともに、歩行者・自転車空間の整備やレンタサイクルの充実、駐車場の利用促進などにより、徒歩や自転車で回遊できる環境づくりを進めます。

また、空き店舗の活用や起業者の誘致を図りながら商店街の活性化を図るとともに、休憩所の設置、地域の情報発信、「みんながガイドさん」の取り組みなど、地域ぐるみによる来訪者へのもてなしの環境づくりを進めます。



お城祭り(雲浜獅子)

③歴史・文化や自然環境を活用した観光・交流の推進

寺社建造物・祭りなどの文化財・伝統文化を地域住民が体験し学びながら、継承を図ります。また、小浜西組や旧丹後街道などの伝統的な町並みの保全・修復に取り組み、散策したくなる歩行者空間づくりを進めます。さらに、史跡後瀬山城跡や小浜城跡の歴史を活かした公園整備の検討を進めます。

若狭湾・漁港や青井生活環境保全林^(※)などの恵まれた自然を活かした体験型の交流により、地域の賑いづくりを進めます。

福井県立大学小浜キャンパスでは、産学官の連携による地域産業の活性化や人材育成を図るとともに、体験学習などの交流活動を通じて、地域との連携強化を進めます。



漁業体験の様子(西津)

基本方針②：環境負荷の小さい持続可能なまちづくり

【視点】土地利用、産業、基盤整備(交通、公園・緑地等) 等

①コンパクトな市街地形成と適正な土地利用誘導

環境問題の深刻化や高齢社会の進展などに対応するため、既存の用途地域^(※)を基本としてコンパクトな市街地を形成します。

このため、新たな開発を都市的未利用地に誘導するとともに、工場移転後の土地利用転換と機能導入などを進めます。



まとまりのある市街地

②都市基盤の整備

自動車に過度に依存せずに歩いて暮らせるまちを形成するため、誰もが利用しやすい歩行者・自転車空間の整備や身近な公園・広場の確保など推進します。また、老朽化した西津橋・大手橋は、周辺景観と調和したデザインによる架け替えを促進します。



(都)山手小松原線(西津)

基本方針③：安全・安心で快適に住み続けられるまちづくり

【視点】生活環境、防災、防犯 等

①誰もが住み続けられる市街地の形成

行政機能や医療・商業・公共交通などの住民サービス機能が整った生活利便性の高い市街地が形成されています。少子化・高齢化が進む中で、今後も、機能集約やまちなか居住の推進、公共交通機能の強化など、生活利便性の維持・向上を図りながら、誰もが安心して住み続けられる市街地づくりを進めます。

また、土地区画整理事業^(※)により基盤整備された専用住宅地においては、良好な居住空間の保全・形成を進めます。

子どもや若者を含めた地域活動や地域内交流を通じて、コミュニティの維持・向上を図るとともに、地域への誇りや愛着心を育み、住み続けたい市街地づくりを進めます。

②安全・安心な地域づくり

北川、南川、弁天川などの河川については、改修をはじめとした総合治水対策^(※)を促進します。

また、建築物の耐震化の促進、避難路やオープンスペース^(※)・避難場所の確保などにより、地域の防災性の向上に努めます。

さらに、地域ぐるみによる防災体制の整備・充実を進めるとともに、いざという時に相互に助け合えるコミュニティ^(※)の形成、街灯の設置や門灯の活用などにより、安全・安心な地域づくりを進めます。



地蔵盆の様子(西津)



北川水生生物調査の様子(雲浜)



一門一灯運動(小浜西組)

基本方針④：小浜の風景を育み続けるまちづくり

【視点】景観、自然環境 等

①都市の魅力を高める景観の形成

若狭湾や北川・南川の水辺景観、市街地の背景となる山地景観、長い年月によって培われてきた歴史景観や文化的景観などを適切に保全し、次代へ継承していきます。

小浜西組重要伝統的建造物群保存地区^(※)や旧丹後街道沿いの伝統的な町並みを保存するとともに、周囲の景観と調和した建築物の誘導、屋外広告物の適正な規制・誘導など、地域の魅力や暮らしの豊かさを高める取組みを進めます。

JR 小浜駅および JR 東小浜駅周辺では、観光・交流の玄関口としての良好な景観形成を進めます。

②花と緑の地域づくり

住宅や店舗・事業所、市役所をはじめとする公共公益施設、道路空間や公園、海岸・河川など、地域の身近な空間における植栽・花植え活動などを進めるとともに、ビオトープ^(※)の整備、美化活動やゴミのポイ捨て・不法投棄の防止などにより、快適でおいしい生活環境づくりを進めます。

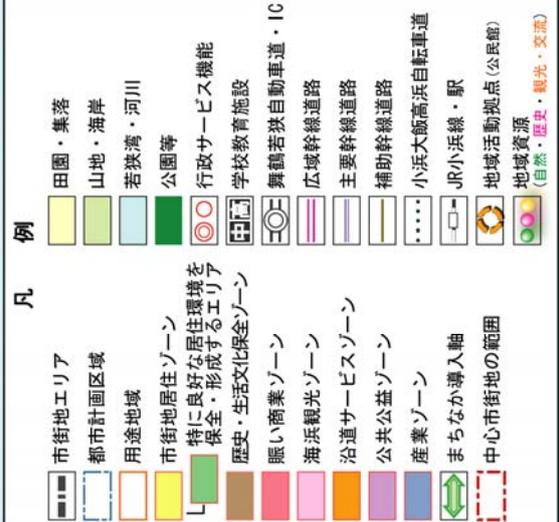


まちづくり協定に基づく良好な町並みの形成(住吉・酒井)



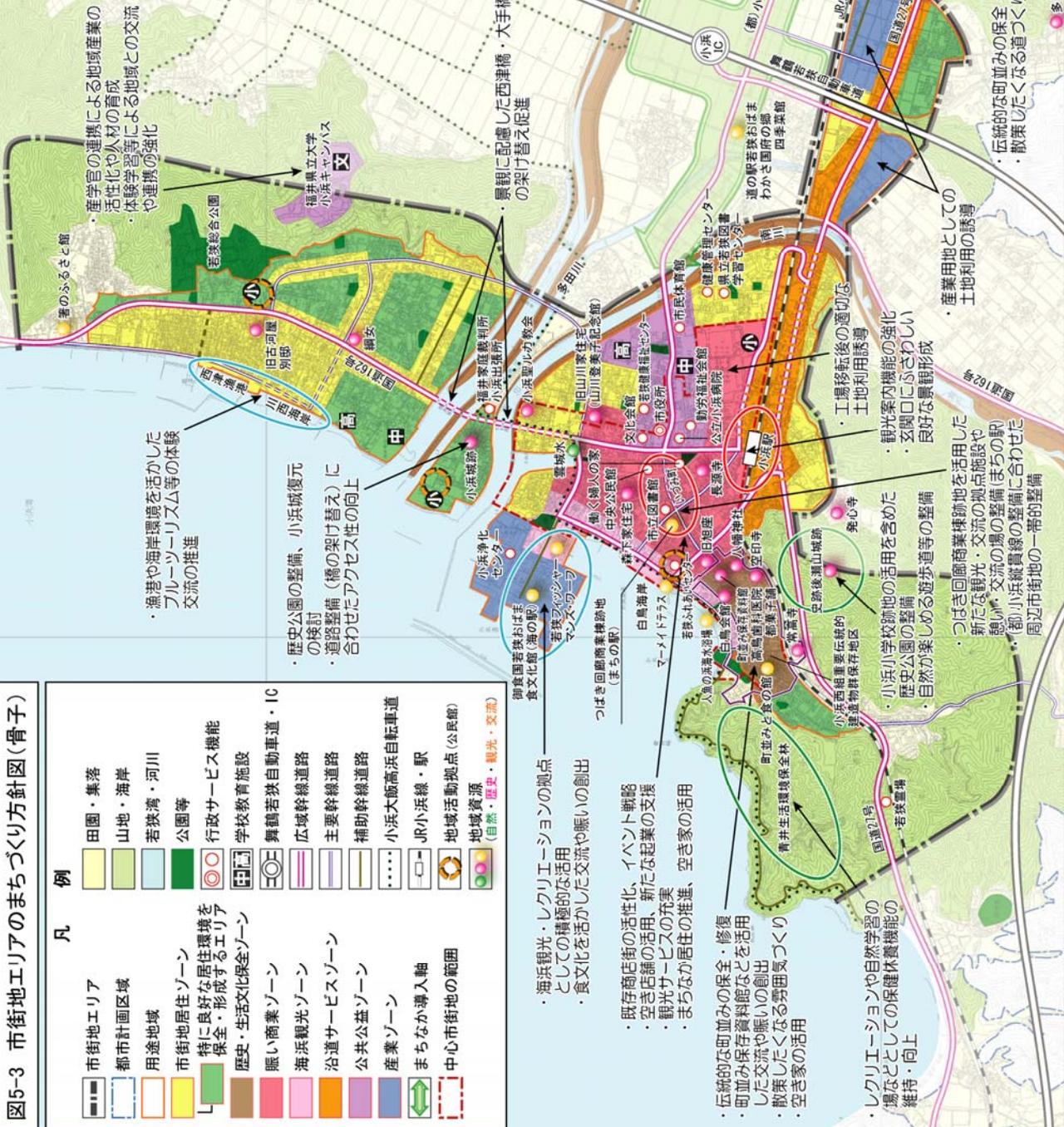
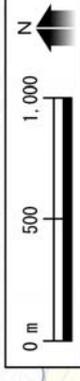
美化活動の様子(西津)

図5-3 市街地エリアのまちづくり方針図(骨子)



その他エリア全体に関すること

- ・歩行者・自転車空間の整備、レンタサイクルの充実等による地域資源の連携強化
- ・駐車場の確保、休憩所の整備、デザインが統一されたサインの設置、観光マップの活用等による回遊性の創出
- ・地域ぐるみによる求訪者へのおもてなし
- ・歴史・文化・伝統工芸等の継承、活用を通じた賑いづくり
- ・歩行者空間の整備や公共交通網の充実等による誰もが移動しやすい環境づくり
- ・生活利便性の向上、居住環境の維持・改善
- ・さまざまな世代間の交流や地域活動を通じたコミュニティの維持、地域への誇りや愛着心の醸成
- ・密集市街地の環境改善、河川改修等の総合治水対策、安全な避難路や避難場所の確保等による防災性の向上
- ・地域ぐるみによる防災体制の充実
- ・街灯の充実や門灯の活用等による夜間の安全性の確保
- ・海岸・河川景観、山地景観、歴史景観・文化的景観等の次世代への継承
- ・周囲の景観と調和する建築物等の誘導、煩雑な屋外広告物の規制
- ・住宅や店舗・事業所、公民館等の公共施設、道路・公園・河川等の身近な空間における花植え等の緑化活動
- ・地域ぐるみによる美化活動、ゴミのポイ捨て等の防止



5-3 田園エリアのまちづくり方針（たたき台）

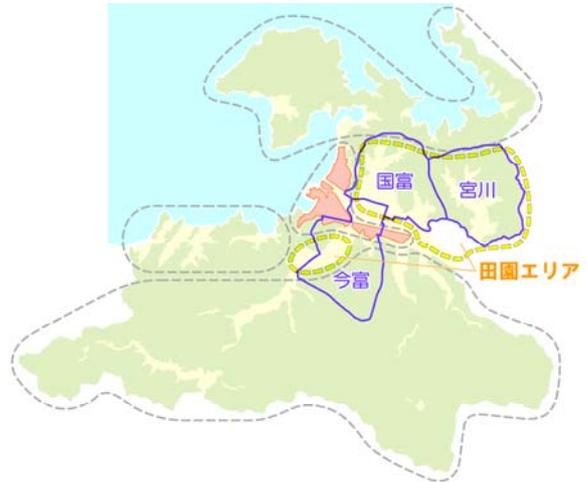
(1) 田園エリアの概要／国富地区、宮川地区、今富地区、（松永地区）

①田園エリアの概況

北川や南川流域の平坦地にまとまった農地が広がっており、市街地を取り囲んでいます。背後の山々や河川と一体となって自然豊かで落ち着きのある田園風景が形成されています。

また、羽賀寺や加茂神社、妙楽寺などの歴史文化資源を豊富に有する地域でもあります。

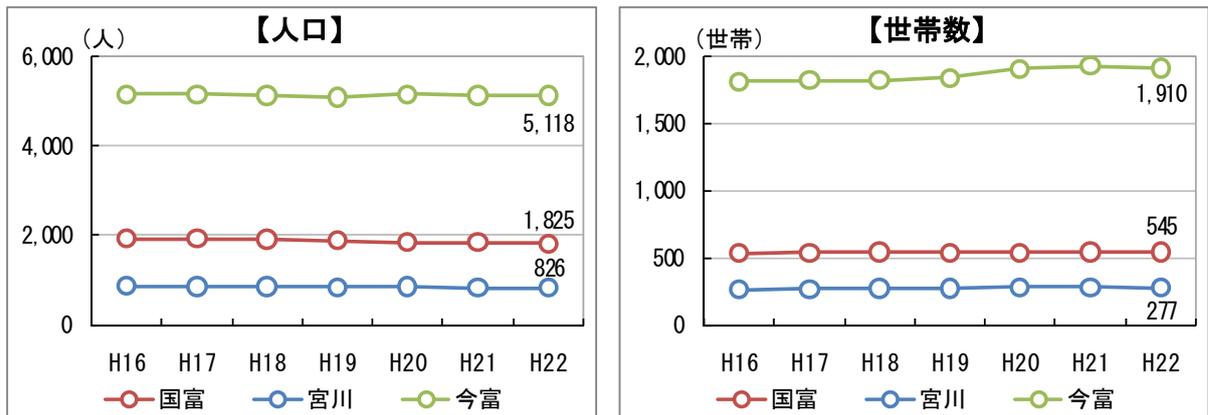
平成 23 年度には、道の駅若狭おばまが開業し、また、舞鶴若狭自動車道小浜 IC が開通するなど、本市の広域的な観光・交流の玄関口にふさわしい環境づくりが期待されています。



②人口・世帯数

平成 22 年における田園エリアの人口（3 地区の合計）は 7,769 人、世帯数は 2,732 戸であり、それぞれ市全体の 24.3%、22.3%を占めています。

経年変化では、国富地区と宮川地区が減少傾向、今富地区は横ばいとなっています。



③主な地域資源

国富地区	自然資源	北川、江古川、天ヶ城山、一団の農地、特産農作物(米等)、新福寺のフジ、羽賀境内林
	歴史文化資源	羽賀寺本堂、銅造如意輪観音半伽像(正林庵)、木造十一面観音立像、木造千手観音立像、木造毘沙門天立像(羽賀寺)、奈胡の六斎念仏、日枝神社本殿
	主な施設	県立大学小浜キャンパス、県立嶺南西養護学校、国富小学校、国富公民館
宮川地区	自然資源	野木川、一団の農地、特産農作物(一寸ソラマメ等)、加茂神社のムク・上宮社叢・大スギ、長泉寺のコウヨウザン
	歴史文化資源	木造千手観音立像(加茂神社)、加茂神社のオイケモノ、加茂古墳、虫送り、新保山城跡、大谷の不動明王
	主な施設	宮川小学校、宮川公民館
今富地区	自然資源	北川、南川、多田ヶ岳、一団の農地、特産農作物(米等)、円照寺庭園
	歴史文化資源	妙楽寺本堂 附厨子、木造薬師如来立像 附木造十一面観音立像・木造菩薩立像(多田寺)、木造千手観音立像(妙楽寺)、木造大日如来坐像、木造不動明王立像(円照寺)、和久里壬生狂言、史跡後瀬山城跡、多田寺本堂、円照寺大日堂 附棟札一枚、武田元光墓塔(発心寺)
	主な施設	今富小学校、今富公民館、野代グラウンド、道の駅若狭おばま、わかさ国府の郷四季菜館
	その他	小浜 IC

※文化財の出典：小浜市教育委員会ホームページより

(2) 地域別懇談会で出された主な意見

■観光・交流について

- ・小浜 IC が開通したことから、いかに人を呼び込むかを考えることが大事。
- ・資源は多いが、見て回れる環境ができていない。サイクリングなど、回遊しやすい環境づくりを行うことが大事。
- ・来訪者が身近に観光できる環境づくりを行い、地域でもてなしをする。
- ・市や観光協会などが連携して、寺社や自然環境などの資源を活用してほしい。

■地域活動について

- ・地区の若者が中心となり、古代米の栽培とそれを利用した田んぼアートの活動を行っている。
- ・多田ヶ岳登山道の標識整備に取り組んでいるが、整備に関する具体的な構想や設計図があると、段階的な取り組みや地域・行政・森林生産組合などとの役割分担ができる。子どもが遊べる良い環境となる。
- ・天ヶ城山の活用は、クマの問題があつて山の中に入ることが難しくなっている。
- ・協働^(※)のまちづくりは、地区が主体の活動と、市からの支援が必要な活動がある。

■土地利用について

- ・(都)小浜縦貫線の沿道は、行政主導で乱開発を防ぐことが大事。
- ・田んぼの中にアパート等の建設が進んでいるが、地域コミュニティ^(※)が形成されておらず、子ども達がかわいそう。今後、新たなアパート等は規制する方向で考えられないか。

■農業・林業について

- ・農業を守るのは大変であり、今後、農業離れがますます進み、荒地が増えることが心配。
- ・少子化が進んでおり、後継者を確保することが課題。
- ・特産品の活用方法を考えていくことが大事。
- ・私有林を維持するための対策を考える必要がある。
- ・獣害対策として、電気柵により獣害は減るが、逆に、山が荒れて山林景観が悪くなる。
- ・電気柵を取り除くと田園景観は良くなるが、獣害対策を考える必要がある。

■生活環境について

- ・学生の通学や高齢者の日常生活の移動手段として、公共交通を整えることが大事。
- ・高齢化が進んでおり、地域福祉を充実してほしい。

■防災・防犯について

- ・避難路や避難場所、公園が不足している。
- ・防災性を高めるため、南川の堤防を補強してほしい。
- ・避難場所である公民館が古く、実際の災害時には使えない。防災訓練が活かされない。
- ・防犯についても考える必要がある。

■市のビジョンについて

- ・住民の意見を聞いた上で、市のビジョンを示してほしい。
- ・若者が夢をもてるプランとしてほしい。
- ・現在は田園エリアであったとしても、将来的にも田園エリアのままとは限らない。
- ・太陽光発電や水力発電などの再生可能エネルギー^(※)についても考えて欲しい。

<参考>各地区のまちづくりの基本理念 (いきいきまちづくり事業 地区振興計画より)

国富地区：安全で快適なむらづくり 住んで楽しいむらづくり 農村ならではの魅力的なむらづくり
宮川地区：住んでよいむら 働いてよいむら 長寿・健康のむら 学んでよいむら 豊かで美しい環境のむら
今富地区：21世紀を創造するまちづくり in 今富

(3) 田園エリアのまちづくり方針

基本方針①：小浜の地域資源を活かした活力と交流を生みだすまちづくり

【視点】観光、交流、伝統工芸、歴史・文化、食 等

①交流拠点の活用と地域資源間の連携強化による周遊型観光のまちづくり

小浜 IC 開通の効果を活かすため、道の駅若狭おばまを周辺観光地への誘導拠点とし、わかさ国府の郷四季菜館とも連携しながら、農や食文化を活かした体験などが楽しめる場所として活用します。

自転車を含めた移動しやすさの向上、景観に配慮した案内看板の設置や案内マップの活用、地域の情報発信などにより、地域資源間の連携を強化し、周遊型観光に向けた環境づくりを進めます。

また、語り部の育成など、来訪者を地域ぐるみでもてなすまちづくりを進めます。



田んぼアート田植えの様子(今富)

②“農”資源の活用による観光・交流の推進

地域の食文化の継承や特産品の開発・販売、市民農園等を利用した農業体験の実施などにより、来訪者や都市住民との交流を図るとともに、古代米を利用した田んぼアートの取組みなどを通じて地域内交流の活性化を図り、賑いと活力のある地域づくりを進めます。



貸し農園(国富)

③自然環境や歴史・文化を活用した観光・交流の推進

北川や南川などの河川を利用した親水空間の創出、多田ヶ岳や天ヶ城山をはじめとした山間部での自然体験の推進など、自然環境を活かした地域づくりを進めます。

また、寺社建造物や祭り、すずりづくり等の伝統工芸など、地域の歴史・文化を継承していくとともに、観光・交流への積極的な活用を進めます。



多田ヶ岳の登山道整備の様子(今富)

基本方針②：環境負荷の小さい持続可能なまちづくり

【視点】土地利用、産業、基盤整備(交通、公園・緑地等) 等

①農地や山林等の自然環境の保全

農地や山林の自然環境を保全することを基本とし、土地利用の適正な規制と利活用を図ります。

特に、小浜 IC 周辺および(都)小浜縦貫線の沿道では、中心市街地の活性化を図る観点からも無秩序な開発を抑制するとともに、既に宅地開発が行われている地域においては、良好な住環境の形成に向けたルールづくりなどの検討を行います。

優良農地を保全するため、後継者の育成や地産地消^(※)の推進などによる持続可能な営農環境づくりに取り組むとともに、コウノトリの郷づくりなどの環境共生型の農業を進めます。

また、森林の適切な維持管理や獣害対策に取り組むとともに、間伐材の活用などによる林業の活性化を進めます。



休耕田を利用したひまわり畑(宮川)



地酒仕込みの様子(今富)

基本方針③：安全・安心で快適に住み続けられるまちづくり

【視点】生活環境、防災、防犯 等

①地域の愛着を育み、いつまでも住み続けられる地域づくり

公共下水道の整備促進、生活道路の改善、丸山橋の架け替え検討、あいあいバスによる移動性の向上、日常的な生活サービス機能の確保など、生活環境の向上に努め、若者からお年寄りまでがいつまでも住み続けられる地域づくりを進めます。

福井県立大学小浜キャンパスや小学校、嶺南西養護学校などとも連携し、子どもや若者を含めた地域内交流や地域活動を通じて、コミュニティ^(※)の維持・向上を図るとともに、地域への誇りや愛着心を育み、住み続けたい地域づくりを進めます。

②安全・安心な地域づくり

北川、南川、江古川、野木川などの河川については、改修をはじめとした総合治水対策^(※)を促進します。

また、災害時において迅速な避難ができるよう、避難路や避難場所の確保に努めます。

さらに、地域ぐるみによる防災体制の整備・充実を進めるとともに、いざという時に相互に助け合えるコミュニティ^(※)の形成、不審者などに対する防犯体制の整備・充実に取り組み、安全・安心な地域づくりを進めます。



嶺南西養護学校との交流(国富)



「宮川の丘に木を植えようプロジェクト」
／少子化対策事業(宮川)



消火訓練の様子(今富)

基本方針④：小浜の風景を育み続けるまちづくり

【視点】景観、自然環境 等

①田園・集落景観の保全と継承

人々の長い生活の営みを今に伝えるとともに、落ち着きや安らぎ、地域への誇りを感じさせるのどかな田園・集落景観を保全し、次代へ継承していきます。

また、小浜 IC 周辺および(都)小浜縦貫線の沿道においては、屋外広告物の規制などにより、来訪者を心地よく迎える良好な景観形成を進めます。

②花と緑の地域づくり

住宅や事業所、公民館等の公共施設、道路空間や公園、河川など、地域の身近な空間における植栽・花植え活動を進めるとともに、美化活動やゴミのポイ捨て・不法投棄の防止などにより、快適でうるおいのある生活環境づくりを進めます。



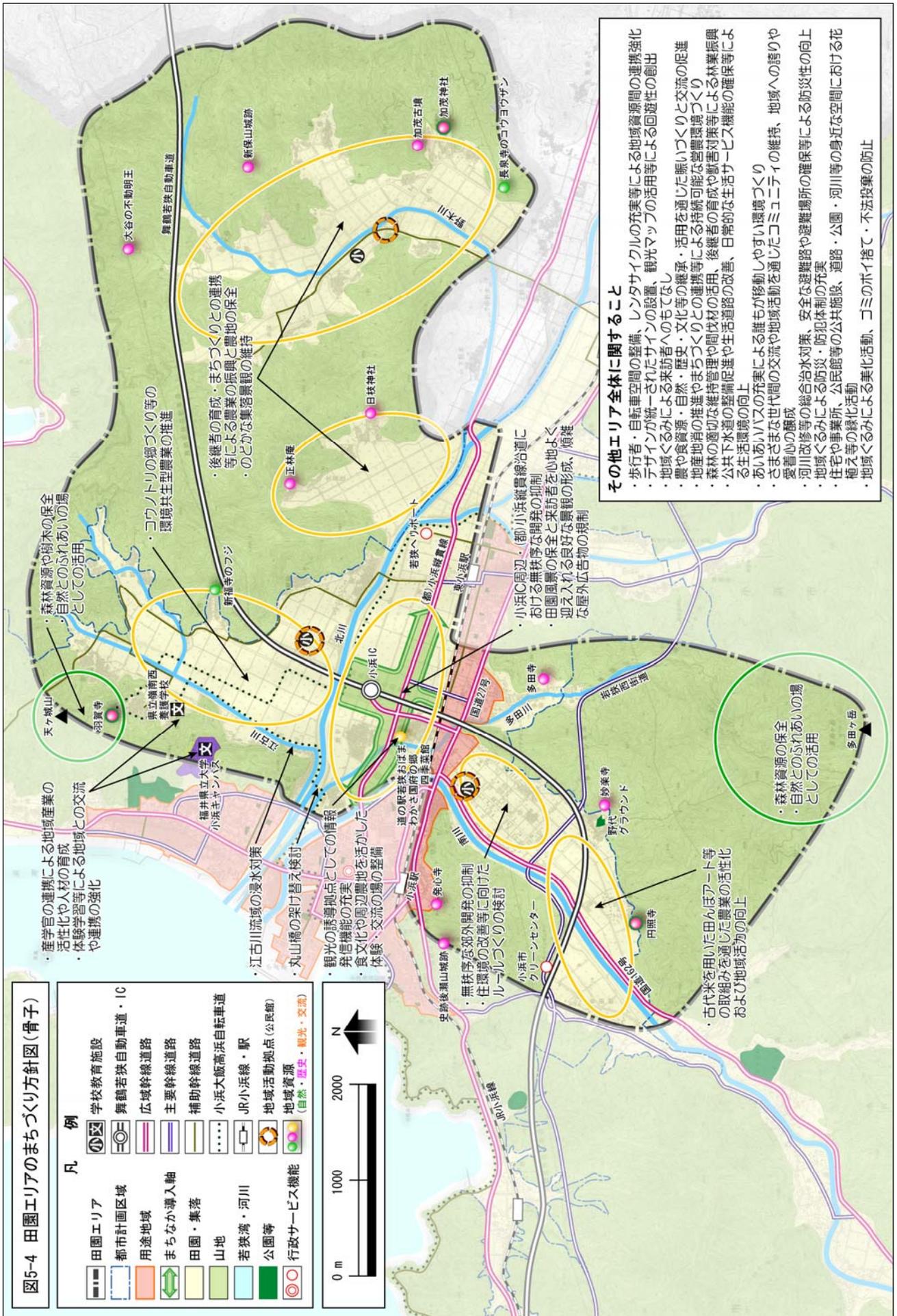
花いっぱい運動の様子(宮川)



しば桜の管理の様子(国富)

図5-4 田園エリアのまちづくり方針図(骨子)

凡 例	
田園エリア	学校教育施設
都市計画区域	舞鶴若狭自動車道・IC
用途地域	広域幹線道路
まちなか導入軸	主要幹線道路
田園・集落	補助幹線道路
山地	小浜大飯高浜自転車道
若狭湾・河川	JR小浜線・駅
公園等	地域活動拠点(公民館)
行政サービス機能	地域資源 (自然・歴史・観光・交流)



産学官の連携による地域産業の活性化や人材の育成
 体験学習等による地域との交流や連携の強化

森林資源や樹木の保全
 自然とのふれあいの場としての活用

天ヶ城山
 羽賀寺
 県立鶴岡西養護学校

大谷の不動明王
 舞鶴若狭自動車道

新保山城跡
 加茂古墳
 加茂神社

長興寺のこわいワザン

環境共生型農業の推進
 ・後継者の育成・まちづくりとの連携等による農業の振興と農地の保全
 ・のどかな集落景観の維持

正林庵
 日枝神社

若狭へりポイント
 郡小浜線貫線

小浜IC
 国道27号

江古川流域の浸水対策
 ・丸山橋の架け替え検討
 ・観光の誘導拠点としての情報発信機能の充実
 ・食文化や周辺農地を活かした食縁・交流の場の整備

道の駅若狭おぼろまわかさ国府の郷四季菜館

無杖亭を郊外開葬の抑制
 住環境の改善等に向けたルールづくりの検討

小浜市
 クリーニングセンター

小浜IC周辺・(郡)小浜線貫線沿道における無杖亭な開葬の抑制
 田園風景の保全と来訪者を心地よく迎え入れる良好な景観の形成、傾雑な屋外広告物の規制

多田川
 多田寺
 野代クラフット

砂楽寺
 田原寺

第291号国

産学官の連携による地域産業の活性化や人材の育成
 体験学習等による地域との交流や連携の強化

森林資源の保全
 自然とのふれあいの場としての活用

多田ヶ岳

田園エリア

その他エリア全体に関すること

- ・歩行者・自転車空間の整備、レンタサイクルの充実等による地域資源間の連携強化
- ・デザインが一されたサインの設置、観光マップの活用等による回遊性の向上
- ・地域ぐるみによる来訪者へのおもてなし
- ・農や食資源・自然・歴史・文化等の継承・活用を通じた賑いづくりと交流の促進
- ・地産地消の推進やまちづくりとの連携等による持続可能な景観環境づくり
- ・森林の適切な維持管理や間伐材の活用、後継者の育成や獣害対策等による林業振興
- ・公共下水道の整備促進や生活道路の改善、日常的な生活サービス機能の確保等による生活環境の向上
- ・あいあいパスの充実による誰もが移動しやすい環境づくり
- ・さまざまな世代間の交流や地域活動を通じたコミュニティの維持、地域への誇りや愛着心の醸成
- ・河川改修等の総合治水対策、安全な遊歩道や避難場所の確保等による防災性の向上
- ・地域ぐるみによる防災・防犯体制の充実
- ・住宅や事業所、公民館等の公共施設、道路・公園・河川の身近な空間における花植え等の緑化活動
- ・地域ぐるみによる美化活動、ゴミのポイ捨て・不法投棄の防止

5-4 山間エリアのまちづくり方針（たたき台）

（1）山間エリアの概要／松永地区、遠敷地区、口名田地区、中名田地区

①山間エリアの概況

百里ヶ岳や飯盛山などの山並みを有し、鶉の瀬や上根来水源の森、なかなかた茅場など豊かな自然資源を有するエリアです。

また、明通寺や神宮寺、谷田寺などの豊富な歴史文化資源を有しています。

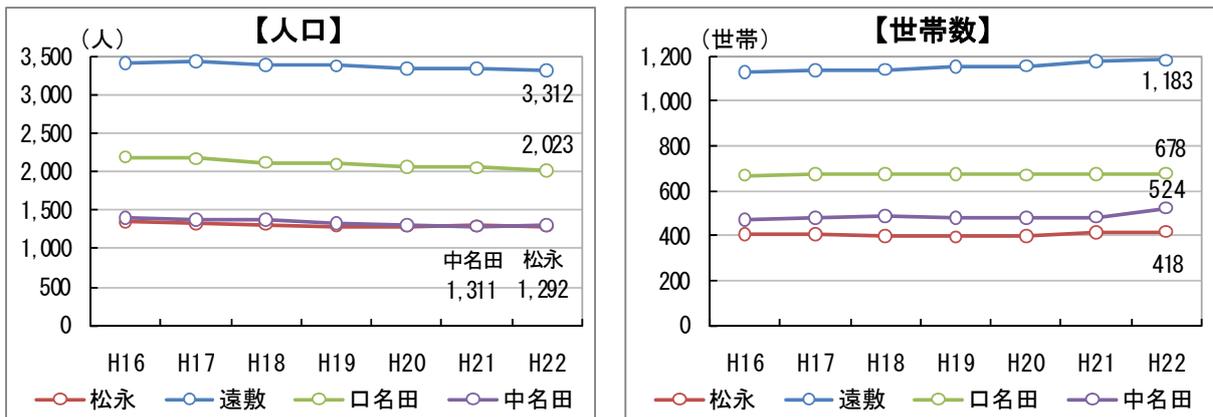
JR 小浜線、国道 162 号、若狭西街道が交通網の骨格となっています。



②人口・世帯数

平成 22 年における山間エリアの人口（4 地区の合計）は 7,938 人、世帯数は 2,803 戸であり、それぞれ市全体の 24.8%、23.5%を占めています。

経年変化では、全ての地区で人口が減少傾向にあります。世帯数は微増傾向にあります。



③主な地域資源

松永	自然資源	北川、松永川、三番の滝、明通寺のカヤ、明通寺境内林
	歴史文化資源	明通寺本堂・三重塔・山門(仁王門)、木造薬師如来坐像、木造降三世明王立像、木造深沙大将立像、木造不動明王立像(明通寺)、白鬚神社前方後円墳、太興寺古墳群
	主な施設	松永小学校、松永公民館、JR 新平野駅
遠敷	自然資源	北川、遠敷川、鶉の瀬、上根来水源の森、萬徳寺庭園、萬徳寺のヤマモミジ、百里ヶ岳のシャクナゲ自生地、白石神社の椿群生林、神宮寺のスダジイ、若狭姫神社(下社)オガタマノキ、伯父ヶ谷山の神のトチノキ、特産農作物(釜炒り茶等)
	歴史文化資源	神宮寺本堂・仁王門、木造阿彌陀如来坐像(萬徳寺)、木造薬師如来坐像(国分寺)、銅造薬師如来立像(竜前区)、木造男神・女神坐像(神宮寺)、若狭国分寺跡、若狭彦神社(上社)本殿・神門・随神門、若狭姫神社(下社)本殿・神門・随神門・社叢、国分寺釈迦堂、検見坂古墳群、山八講行事
	主な施設	県立若狭東高等学校、遠敷小学校、遠敷公民館、県立若狭歴史民俗資料館、埋蔵文化財調査センター、小浜市総合福祉センター、老人憩の家、小浜市サイクリングセンター、鶉の瀬資料館、森林の水 PR 館、若狭へレポート、JR 東小浜駅
口名田	自然資源	南川、飯盛山、多田ヶ岳、大黒山、奥田縄の滝、須縄の大滝、妙祐寺のシダレザクラ、特産農作物(谷田部ネギ等)
	歴史資源	木造千手観音立像 附木造毘沙門天立像・不動明王立像(谷田寺)、奥窪谷の六斎念仏、大塩城跡・障子堀、松上げ
	主な施設	口名田小学校、口名田公民館、小浜市総合運動場、小浜市クリーンセンター
中名田	自然資源	南川、飯盛山、なかなかた茅場、特産農作物(田村米等)
	歴史文化資源	熊野那智神社境内、松上げ、田村薬師
	主な施設	中名田小学校、中名田公民館、小浜市ふるさと文化財の森センター、小浜市リサイクルプラザ

※文化財の出典：小浜市教育委員会ホームページより

(2) 地域別懇談会で出された主な意見

■観光・交流について

- ・若狭おばまの魅力に惹かれたリピーターが多い。
- ・市全体で自転車道の整備を進め、自転車で走れるまちをめざしてはどうか。
- ・資源マップの作成とサイクリングの周遊コースの設定、語り部の募集などを考えている。
- ・来訪者が直売所に寄ってもらえると、地域がもっと賑う。地域でお金を使ってもらいたい。
- ・道の駅を活性化するために、周辺の農地を上手く活用することが大事。

■地域活動について

- ・遠敷峠からの景色が良く、秋の雲海の時期になると多くの来訪者が訪れる。頂上に方位看板の設置を考えているが、現在は遠敷側からは登れないため、通行できるようにしてほしい。
- ・なかなた茅場は、ふるさと文化財の森^(※)に認定されおり、観光面に結び付けたい。
- ・旧上・下根来小学校を地域交流の場として活用している。上根来区は景色が良く観光面でも活用したい。
- ・子どもが減り、地域の歴史・文化の継承が難しくなっている。
- ・めのう細工や和紙製造などの伝統工芸は後継者がおらず、継承が難しい。

■農業・林業について

- ・高齢化が進み、農家が少なくなっている。獣害も多い。
- ・遊休農地や間伐材、特産品などの資源の活用で協働で取り組みたい。
- ・20～30年先を見据え、コウノトリと共生できる環境ができるとよいが、農業としては大変。

■生活環境について

- ・スローライフ^(※)に適した場所であり、のんびり暮らせるまちになるとよい。
- ・「住みよいまち」よりも「住みたくなるまち」をめざしたい。
- ・地区のコミュニティが希薄化している。また、歴史や文化の語り部が少なくなっている。
- ・子どもを育て、地区への愛着を育むため、地区の歴史を学ぶ機会を設けたい。
- ・国道162号のバイパス整備、県道岡田深谷線の整備が必要。
- ・交通量が増え、交通事故やゴミのポイ捨てが増えている。

■防災について

- ・山が荒れ、砂防ダムに土砂が溜まっている。降雨時には、川が濁った状態が1週間ほど続く。

■景観・美化について

- ・南川の改修は、ほぼ完了しているが、改修しすぎると、川本来の景色がなくなる。
- ・山の紅葉や若葉がきれいだが、道沿いに杉が植えられていて、あまり見えない。
- ・美山町(京都府南丹市)では自主的に集落を美しく保っており、地域づくりの良いお手本になる。

■協働のまちづくりについて

- ・人口減少や高齢化が進んでおり、協働^(※)によるまちづくりの環境を整えていく必要がある。「やる気のある人」、「元気のある人」、「本気の人」を集め、行動することが重要。
- ・地区住民の意見を市に伝えやすくする仕組みがあるとよい。

■市のビジョンについて

- ・市街地と周辺の地区との結び付きを強化することが大事。
- ・まちづくりには「人」が必要であり、若者が残れるまちにするのが一番大事である。

<参考>各地区のまちづくりの基本理念 (いきいきまちづくり事業 地区振興計画より)

松永地区	: 安全で安心な環境をつくろう 自然の恵みをいただこう 心豊かにいきいきと生きよう
遠敷地区	: 誰もが住みたいと実感する快適で楽しい、活気にみちた「ふるさと遠敷」
口名田地区	: 清く住みよい山と緑と水の郷 口名田
中名田地区	: 住みやすい、住んでいて良かった、他所から移り住んでみたい中名田

(3) 山間エリアのまちづくり方針

基本方針①：小浜の地域資源を活かした活力と交流を生みだすまちづくり

【視点】観光、交流、伝統工芸、歴史・文化、食 等

①交流拠点の活用と地域資源間の連携強化による周遊型観光のまちづくり

森林の水 PR 館を観光・交流の拠点として活用し、地域の特産品や周辺資源などを PR するとともに、直売所や地域住民との交流の場の整備などにより、地域の賑いづくりにつなげていきます。また、市内の観光地への誘導を行います。

自動車だけでなく、自転車による移動しやすさの向上、JR との連携、景観に配慮した案内看板の設置や案内マップの作成、地域の情報発信などにより、地域資源間の連携を強化し、周遊型観光に向けた環境づくりを進めます。

また、語り部の育成など、来訪者を地域ぐるみでもてなすまちづくりを進めます。



鮎つかみ大会の様子
(遠敷)

②地域特有の資源を活かした観光・交流の推進

地域に親しまれている多田ヶ岳や大黒山などを利用した登山道の整備、遠敷峠などにおける視点場^(※)づくりなど、山間部の活用を進めます。

また、農地や河川・鶴の瀬などの自然環境、谷田部ネギ・新田ゴボウなどの伝統野菜、釜炒り茶などの地域資源の活用を通じて、地域内交流や観光の活性化を図り、活力と賑いのある地域づくりを進めます。



釜炒り茶づくり/摘み取りの様子
(遠敷)

③歴史・文化を活かした観光・交流の推進

明通寺や神宮寺などの社寺、旧丹後街道沿いの伝統的な町並み、伝統工芸をはじめとした地域の歴史・文化を継承するとともに、新たな掘り起こしを含めて観光・交流に積極的に活用し、賑いのある地域づくりを進めていきます。



大黒山登山(口名田)

基本方針②：環境負荷の小さい持続可能なまちづくり

【視点】土地利用、産業、基盤整備（交通、公園・緑地等） 等

①自然環境の保全と土地利用の適切な規制・誘導

農地や山林の自然環境を保全することを基本とし、土地利用の適正な規制と利活用を図ります。

また、学校給食への農産物の利用など地産地消^(※)を推進しながら農業の活性化を図るとともに、葦の生産を通じた地域活力の創出など、持続可能な地域づくりを推進します。

若者を中心とした雇用の場の創出に向けた企業誘致に関しては、既存の工業団地へ誘導するとともに、事業所内の緑化を推進し、周辺環境との調和を図ります。

森林については、適切な維持管理の下で林業の振興を図るとともに、間伐材の活用や獣害対策に取り組みます。



なかなた茅場(中名田)

基本方針③：安全・安心で快適に住み続けられるまちづくり

【視点】生活環境、防災、防犯 等

①地域の愛着を育み、いつまでも住み続けられる地域づくり

地域の重要な生活道路・広域避難路でもある国道 162 号の改良整備、滋賀県方面を結ぶ路線の延伸整備を促進するとともに、身近な生活道路の整備・改良に努めます。

また、公共下水道整備や合併処理浄化槽設置の推進、あいあいバスによる移動性の向上、パークアンドライド^(※)の推進に向けた JR 新平野駅周辺の駐車場整備、日常的な生活サービス機能の確保など、生活環境の向上に努め、若者からお年寄りまでがいつまでも住み続けられる地域づくりを進めます。

子どもや若者を含めた地域内交流や地域活動を通じて、コミュニティ^(※)の維持・向上を図るとともに、地域への誇りや愛着心を育み、住み続けたい地域づくりを進めます。

②安全・安心な地域づくり

南川、松永川、遠敷川などの河川については、改修をはじめとした総合治水対策^(※)を促進します。

また、災害時において迅速な避難ができるよう、避難路や避難場所の確保に努めます。

さらに、地域ぐるみによる防災体制の整備・充実を進めるとともに、いざという時に相互に助け合えるコミュニティ^(※)の形成、不審者などに対する防犯体制の整備・充実に取り組み、安全・安心な地域づくりを進めます。



健康ウォークの様子
/世代間交流(中名田)



「松永カルタ」大会(松永)



文化財の防災訓練(遠敷)

基本方針④：小浜の風景を育み続けるまちづくり

【視点】景観、自然環境 等

①山村・農村景観の保全と継承

地域を取り囲む山並み・河川・農地など、人々の長い生活の営みを今に伝えるとともに、落ち着きや安らぎ、地域への誇りを感じさせる農山村の景観を保全し、次代へ継承していきます。

旧丹後街道の歴史的雰囲気と調和する町並みづくり、自然景観と調和する建築デザインの誘導、自然景観を楽しむ視点場^(※)の整備など、これまで以上に魅力のある景観まちづくりを進めます。

②花と緑の地域づくり

住宅や事業所、公民館等の公共施設、道路空間や公園、河川など、地域の身近な空間における植栽・花植え活動を進めるとともに、水辺環境を活かしたビオトープ^(※)づくり、美化活動やゴミのポイ捨て・不法投棄の防止などにより、快適でうるおいのある生活環境づくりを進めます。



植栽活動の様子(口名田)



ビオトープづくりの様子(松永)

5-5 海岸エリアのまちづくり方針（たたき台）

（1）海岸エリアの概要／内外海地区、加斗地区、（小浜地区）、（西津地区）

①海岸エリアの概況

若狭湾に面し、国定公園に指定されている海岸線や河川、山々の緑など豊かな自然環境を有しています。

鯉川シーサイドパークやブルーパーク阿納など、海水浴や自然体験等の観光・交流の場となっています。

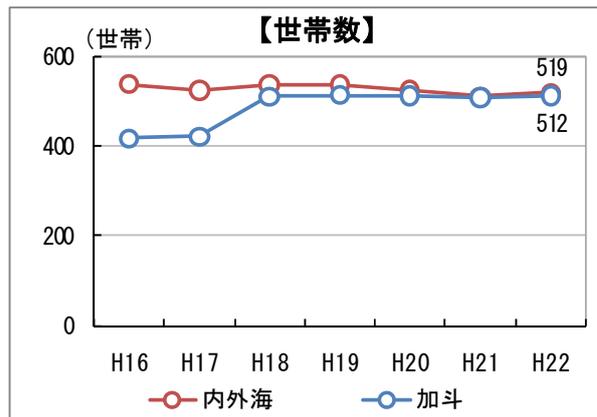
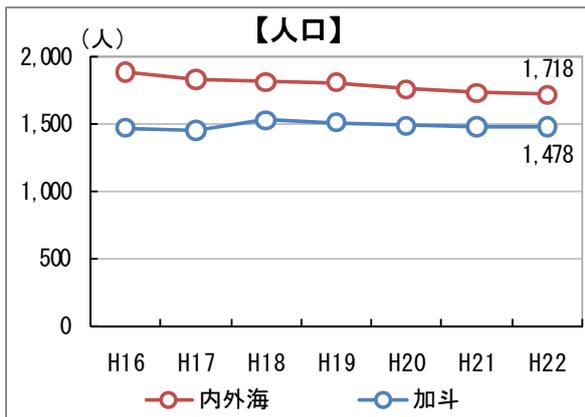
交通網は、加斗地区では舞鶴若狭自動車道、国道 27 号、若狭西街道、JR 小浜線が通り、交通アクセスに優れていますが、内外海地区では国道 162 号に頼っている状況です。



②人口・世帯数

平成 22 年における海岸エリアの人口（2 地区の合計）は 3,196 人、世帯数は 1,031 戸であり、それぞれ市全体の 10.0%、8.7%を占めています。

経年変化では、内外海地区が減少傾向、加斗地区は横ばいとなっています。



③主な地域資源

内外海地区	自然資源	若狭湾国定公園、蘇洞門、久須夜ヶ岳（エンゼルライン）、久須夜神社社叢、田鳥大浜のヤマモモ、内外海海岸
	歴史文化資源	木造観音菩薩坐像（長慶院）、二条院讃岐姫の碑、手杵祭、椎村神社の祭り
	主な施設	内外海小学校、内外海公民館、久須夜交流センター、国立若狭湾青少年自然の家、ブルーパーク阿納、福井県栽培漁業センター、福井県立大学 海洋生物資源臨海研究センター、独立行政法人 水産総合研究センター
	その他	海水浴場（阿納、犬熊、志積、矢代、田鳥、西小川）
加斗地区	自然資源	若狭湾国定公園、蒼島暖地性植物群落、黒駒神社のナギ、黒駒神社社叢、鯉川海岸、勢浜海岸、飯盛山
	歴史文化資源	飯盛寺本堂、岡津製塩遺跡、六日講・二十日講の勧請綱行事
	主な施設	加斗小学校、加斗公民館、市営球場、小浜市衛生管理所、JR 加斗駅、JR 勢浜駅
	その他	鯉川シーサイドパーク、勢浜海水浴場、小浜西 IC、加斗 PA

※文化財の出典：小浜市教育委員会ホームページより

(2) 地域別懇談会で出された主な意見

■観光・交流について

- ・花見・鯉のぼり・海水浴・釣り・キャンプなどの通年型の公園として、鯉川シーサイドパークを活用したい。
- ・鯉川シーサイドパークは、オフシーズンには駐車場が利用できず、道路沿いに車を停めるため危険である。
- ・岡津製塩遺跡への看板はあるが、入口が分かりにくく駐車場もない。行きやすい環境づくりをしてほしい。
- ・飯盛山へはバスで上がれないため、行きやすい環境づくりをしてほしい。

■地域活動について

- ・加斗地区では、若者が中心となったまちづくりの活動組織（加斗ク LOVE）をつくり、鯉川シーサイドパークの芝生張りや祭りの企画などの活動を始めている。

■農業・林業について

- ・遊休農地が多く、若者や後継ぎも少ない。
- ・獣害がひどく、対策が必要。
- ・市外から来訪者を迎えて観光を活性化するためには、旅館などとの連携も考える必要がある。
- ・林業の担い手を育て、地域で林業を維持することが大事。
- ・林道が脆弱で崩れる可能性があり、林道の管理をしっかりしてほしい。

■生活環境について

- ・空き家が多くなっている。
- ・郊外店舗等へ買い物客が流出しており、中心市街地が衰退している。
- ・若者向けの店舗が少ない。若者向けのセンスのあるお店があれば、人も集まる。

■防災について

- ・自主防災組織^(※)の育成を市全体で考えてほしい。
- ・若狭西街道の通行止めを早く解消してほしい。避難道路を確保することが大事。
- ・舞鶴若狭自動車道を災害時の避難路として活用できるようにしてほしい。
- ・山裾は危険区域に指定されていても、山の上が放置されている意味がない。防災のためにも、林業と連携しながら伐採・植林をする必要がある。

■美化について

- ・鯉川シーサイドパークは、特にオフシーズンのゴミが目立ち、お客さんが利用したくなる雰囲気ではない。オフシーズンも含めて清掃協力金を集め、ゴミ処理を行う必要がある。

■市のビジョンについて

- ・ハード面とソフト面の両方を織り交ぜた計画とする必要がある。
- ・計画をただの夢だけに終わらせずに、達成していく方向で取り組んでほしい。
- ・全てのプランが実行できなくても、1つずつでも実現していったほしい。
- ・計画や今後取り組んでいくことを市民・地区住民にPR する必要がある。

■庁内や各主体との連携について

- ・庁内で情報や考えを共有し、連携することが大事。

<参考>各地区のまちづくりの基本理念（いきいきまちづくり事業 地区振興計画より）

内外海地区：平和で希望に満ちた住みよい内外海づくり
加斗地区：ふるさと加斗の未来に向けて、みんなで見つめ、話し合い、取組もう

(3) 海岸エリアのまちづくり方針

基本方針①：小浜の地域資源を活かした活力と交流を生みだすまちづくり

【視点】観光、交流、伝統工芸、歴史・文化、食 等

①地域資源間の連携強化による周遊型観光の環境づくり

舞鶴若狭自動車道小浜西 IC や国道 27 号、国道 162 号による広域的な交通ネットワークを活かし、地域の観光・交流の活性化につなげていきます。

そのために、自転車を含めた移動しやすさの向上により、地域資源間の連携強化を図り、特に、久須夜ヶ岳、飯盛山・飯盛寺、岡津製塩遺跡などへ安全で行きやすい環境整備に努めます。

また、景観に配慮した分かりやすいサインの整備や案内マップの作成、地域の情報発信など、周遊型観光に向けた環境づくりを進めます。

さらに、さまざまな自然体験のインストラクターやコーディネーター^(※)の育成など、来訪者を地域ぐるみでもてなすまちづくりを進めます。

②“海”の資源を活かした観光・交流の推進

海岸エリアは、蘇洞門に代表される美しい海岸環境だけでなく、鯉川シーサイドパークやブルーパーク阿納などの海を楽しめる施設を有しており、遊覧や海水浴のほか、釣りや宿泊などを組み合わせながら、一年を通して楽しめる体験型・滞在型の観光・交流を推進します。

また、加斗地区では、海岸環境の向上に向けた住民主体の取組みが行われており、心地よく快適に利用できる環境づくりに向けて、海岸エリア全体で取り組んでいきます。

産官学が連携して水産業の活性化を図るとともに、水産業と観光が連携した取り組みを進めます。

③自然環境や歴史・文化を活かした観光・交流の推進

遊休農地や中山間地域の棚田を活かした体験農業などの取組み、海浜資源を活かした特産品の開発・販売、地域の歴史・文化の継承と新たな掘り起こしなどを通じて、観光や都市住民などとの交流の推進を図ります。

基本方針②：環境負荷の小さい持続可能なまちづくり

【視点】土地利用、産業、基盤整備（交通、公園・緑地等） 等

①海岸や田園、山林等の保全と継承

若狭湾国定公園に指定された美しい海岸線や山並み、農地などの自然を保全し、次代に継承していきます。

農業については、地産地消^(※)の推進、観光との連携、獣害対策の強化などと合わせて、持続可能な営農環境の形成に努めます。

また、森林の適切な維持管理に努めるとともに、間伐材の活用などによる林業の活性化を図ります。



国道 162 号奈胡崎トンネルの開通
(内外海)



加斗 PA での特産品販売の様子
(加斗)



地引網体験の様子(内外海)



鯉川シーサイドパークでの
芝張り作業の様子(加斗)



田島の棚田(内外海)

基本方針③：安全・安心で快適に住み続けられるまちづくり

【視点】生活環境、防災、防犯 等

①地域の愛着を育み、いつまでも住み続けられる地域づくり

上下水道の整備促進、身近な生活道路の改善、あいあいバスによる移動性の向上、日常的な生活サービス機能の確保など、生活環境の向上に努め、若者からお年寄りまでがいつまでも住み続けられる地域づくりを進めます。

JR 加斗駅周辺では、パークアンドライド^(※)の推進に向けた駐車場整備を進めます。

子どもや若者を含めた地域内交流や地域活動を通じて、コミュニティ^(※)の維持・向上を図るとともに、地域への誇りや愛着心を育み、住み続けたい地域づくりを進めます。

②安全・安心な地域づくり

災害時において迅速な避難ができるよう、避難路や避難場所の確保に努めます。特に、海岸エリアは自然災害の影響を受けやすい地形的条件下にあることから、土砂災害の防止や代替路線の確保などを検討し、災害に強い道づくりを進めます。

また、地域ぐるみによる防災体制の整備・充実を進めるとともに、いざという時に相互に助け合えるコミュニティ^(※)の形成、不審者などに対する防犯体制の整備・充実に取り組み、安全・安心な地域づくりを進めます。



健康ウォークの様子(内外海)



ふれあいサロンの様子
／世代間交流(内外海)



交通安全運動の様子(加斗)

基本方針④：小浜の風景を育み続けるまちづくり

【視点】景観、自然環境 等

①地域の景観の保全と継承

蘇洞門に象徴される若狭湾国定公園の美しい自然景観および海岸環境を、地域との協働により保全します。

人々の長い生活の営みを今に伝えるとともに、落ち着きや安らぎ、地域への誇りを感じさせる農山漁村の景観を保全し、次代へ継承していきます。

また、自然景観と調和する建築デザインの誘導、自然景観を楽しむ視点場^(※)の整備など、これまで以上に魅力のある景観まちづくりを進めます。



漁村集落の風景(内外海)

②花と緑の地域づくり

住宅や事業所、公民館等の公共施設、道路空間や公園、河川など、地域の身近な空間における植栽・花植え活動を進めるとともに、美化活動やゴミのポイ捨て・不法投棄の防止などにより、快適でうるおいのある生活環境づくりを進めます。

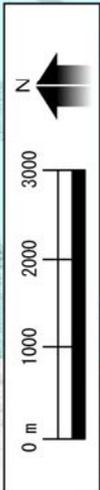
特に、海水浴場などにおいては、来訪者に心地よく利用してもらい、また、何度も訪れたいと思えるよう、適切なゴミ処理に向けた仕組み・体制づくりの構築に努めます。



花いっぱい運動(加斗)

図5-6 海岸エリアのまちづくり方針図(骨子)

凡 例	
	行政サービス機能
	学校教育施設
	舞鶴若狭自動車道・IC・PA
	広域幹線道路
	主要幹線道路
	補助幹線道路
	小浜大飯高浜自転車道
	JR小浜線・駅
	地域活動拠点(公民館)



・眺望景観を楽しむ場としてのPR・活用
 ・遊覧・海水浴・釣り・漁業・宿泊等を組み合わせた体験型・滞在型の観光・交流の推進
 ・集落間を結ぶ道路整備の検討

・展望景観を楽しむ場としてのPR・活用
 ・眺望景観を楽しむ場としてのPR・活用

・産官学の連携による水産業の活性化
 ・産官学の連携による水産業の活性化

・自転車道の整備
 ・自転車道の整備

・パークアンドライドの推進に向けた駐車場の整備(加斗駅周辺)
 ・パークアンドライドの推進に向けた駐車場の整備(加斗駅周辺)

・登山道や遊歩道等の整備によるアクセスの向上
 ・登山道や遊歩道等の整備によるアクセスの向上

その他エリア全体に関すること

- ・広域的な交通網を活かした観光・交流の活性化
- ・自転車道の整備、景観に配慮した分かりやすいサインの整備、案内マップの作成、情報発信等による回遊性の創出
- ・各種体験のインスタグラムやユーザーの育成
- ・地域ぐるみによる来訪者へのもてなし
- ・通年型・体験型・滞在型の観光・交流に向けた環境づくりや取組みの推進
- ・地域活動を通じた何度も訪れ・利用したくなる美しい海岸環境づくり
- ・海洋資源や農産物を活かした特産品の開発・販売、歴史・文化の継承・活用等を通じた賑いづくり
- ・石川県国定公園の自然環境の保全、森林資源の保全・間伐材等の活用
- ・上下水道の整備や崖崩れの防止等による安全で快適な生活環境づくり
- ・あいあいハスの充実による誰もが移動しやすい環境づくり
- ・さまざまな世代間の交流や地域活動を通じたコミュニティの維持、地域への誇りや愛着心の醸成
- ・既存路線の改良やハイバス整備等による災害にも強い生活の道づくり
- ・地域ぐるみによる防災・防犯体制の充実
- ・美しい農村・漁村集落景観の保全、自然景観と調和する建築デザインの誘導
- ・道路・公園・河川等の身近な空間における花植え等の緑化活動
- ・地域ぐるみによる美化活動、ゴミのポイ捨て・不法投棄の防止